

みちのく潮風トレイルの取組み、
魅力、活用方法と『道』について

三陸復興国立公園の目玉事業として「みちのく潮風トレイル」の整備が進められている。元来「塩の道」の起点であった野田村は、海辺と内陸を結ぶトレイルの結節点である。トレイルを地域資源としてどのように活用できるのか、地域の観光振興や地方活性化にとってどのような意義があるのか、そもそもどんな人たちが歩くのか、歩く旅人は何を求めるのか。

歩くことはヒトが移動する、生活の基本である。とはいえ交通の発達した現代日本にあって、とりわけクルマに依存しがちな地方では尚更、「歩く」文化への関心や理解は限定的でステレオタイプでもあるように思われる。

トレイル(=自然歩道)のイメージは、アメリカの自然保護思想とその文化をモデルとする要素が大きい。歩く旅の文化はさらに多様で多面的である。そうしたことについての共通理解や実践は、まだまだ発展途上であるように思われる。「トレイル」をキーワードに、歩くことを基調とする旅や観光の文化とその可能性について考えてみたい。

プログラム

開会挨拶 渥美公秀 大阪大学大学院教授

15:00

講師：河村 信治 (かわむら しんじ) 氏

国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校 教授
チーム北リアス共同代表

大向 清勝 (おおむかい きよかつ) 氏

久慈広域観光協議会 事務局次長

17:00 終了



主催：大阪大学未来共生イノベーター博士課程プログラム
共催：大阪大学人間科学研究科附属 未来共創センター
後援：チーム北リアス、大阪大学野田村コミュニティ復興研究会
国立天文台震災復興データセンター

HP: <http://www.respect.osaka-u.ac.jp/satellite-nodamura>

8月11日(祝)

15:00~17:00

大阪からも 参加可能！
同時中継

大阪大学人間科学研究科
コモンズルームにて
(M135)

